●サンフランシスコ図書館を視察して

副団長　大塚　啓史

私たち市議団は１月２３日の午後からサンフランシスコ公共図書館のウエスタンアディション分館を視察させていただきました。サンフランシスコ公共図書館の創立は１８７９年、現在は市内に２８支部の図書館があります。全体で９２６人のスタッフが働いており、メイン図書館には約３００人いるそうです。２０１８年にサンフランシスコ図書館は包括的なコレクションや先進的なサービス、地域社会への貢献など優れている点が評価され、アメリカの Library of the Year に選出されています。

まず訪問したのは、ジャパンタウンのすぐ近くにある日本語コレクションのあるウエスタンアディション分館です。最新の日本語書籍や漫画、ベストセラー書籍、受賞作品、絵本などの児童書、雑誌や新聞、人気ミュージシャンのＣＤやＤＶＤなどが置いてありました。約１３，０００を超える日本の関連コレクションがあり、サンフランシスコ図書館全体の約８５％がこのウエスタンアディション分館にあります。

（案内していただいた酒井スーザンさん：中央）

その他にも日本語の読み聞かせ会や折り紙の時間もあり、過去には日本映画鑑賞や餅つきなどの催しもありました。日系２世のスタッフの方に案内していただき、その他にも日本の漫画が好きで働いている外国人のスタッフもいました。

このウエスタンアディション分館は日本の文化や歴史、言語などに関する情報を提供できる貴重な場所であり、アメリカに住む日本人が日本の本や情報をアクセスする手段として役に立ち、日本語を学ぶ人々にとってこの図書館は、コミュニティの中心地としての役割を果していると思いました。

その後にサンフランシスコ図書館のメイン図書館を訪問しました。メイン図書館は文化施設や行政施設の中心地のシビックセンター近くにあり、地下１階、地上６階の建物で、３７６，０００スクエアフィート（約３５，０００平方メートル）の広さです。中央には１階から天井までの吹き抜けがあり、天井のガラスを通して自然光が各階に届くようになっていました。

まず、２階の障がい者向けブースでは、視覚・聴覚の障がいのある人々が快適に図書館のサービスを利用でき、さまざまな活動ができるようになっていました。近年では、オーディオブックや電子書籍などのデジタルコンテンツを活用することで、障がい者の人々に情報のアクセスを容易にし、読書の喜びを提供することができています。

（図書館職員の説明）

次の THE　MIX は２１世紀の青少年学習スペースは、１３歳から１８歳までの青少年がデジタルメディアやコンピューターを活用し、発見や学習を行う場所となっていました。THE　MIX では、コロナで学校に行けなくなった子どもたちや若者の図書館の利用者を呼び戻すために改装されたコーナーがあり、最先端のデジタルメディア、ビデオサウンドレコーディング、コンピューター、クリエイティブメーカーの機器を備え、若者たちに読み書きのスキルだけでなく想像力も広げることにつながっています。そして青少年２１世紀に必要なスキ

ルを開発するのをサポートするため、つながりのある学習体験の提供する場所となっています。

次に、３階のインターナショナル・センターには数十種類もの外国語の本が並べられています。中国語、ロシア語、スペイン語、日本語などのほかにも、スワヒリ語、ヒンズー語などといった珍しい本も並べられていました。サンフランシスコは移民も多く、異文化交流や言語学習を促進するためサンフランシスコ公共図書館は重要な拠点となっています。

サンフランシスコは国際化が進んでおり、都市全体の活気と魅力を高め、サンフランシスコ公共図書館が素晴らしい場所となっていると思います。

その他にもサンフランシスコ公共図書館では、ホームレス支援のためのソーシャルワーカーの雇用や､情報弱者にノートパソコンとポータブルＷｉ-Ｆｉをセットで貸し出すサービスなどもあります。

今回の視察でサンフランシスコ図書館は、単なる本の貸し出し場所を超えて、地域社会の重要な拠点として機能していることが勉強になりました。

今後の図書館の充実・活性化に役立てていきたいと思います。

最後に、視察にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

（図書館1階ロビーにて）